

アイスホッケー大会における集団感染事例の対応とその後について

保健福祉部 感染症対策局

1. 概要

- 8/4～8 に苫小牧市で開催された大会（15 都道府県、26 チーム参加）
- **陽性者 150 名**（選手 132 名、チームスタッフ 11 名、大会役員等 7 名）

2. 対応状況

- (1) 参加者対応
 - 検査、隔離、療養先調整（最大で 1 日に 25 名をホテルへ移送）
 - 疫学調査、濃厚接触者等の検査調整（地元帰着後のチーム含む）
- (2) 対策検討
 - 国立感染症研究所、道衛研、北大、日本アイスホッケー連盟等と連携
 - 疫学調査、ゲノム解析、環境調査等により感染拡大の要因を分析
 - 同様の活動における感染対策の検討、アイスリンクの環境改善の実施

3. 感染拡大の要因

- (1) 発見の遅れ
軽症者が多数、主催者・参加チームによる **健康観察の確認が不十分**
- (2) 接触機会の多さ
会場や宿泊施設等において、**ノーマスク接触**（自チーム、他チーム）
- (3) ワクチン接種
参加選手の多くがワクチン未接種（15-19 歳の 2 回接種率 2.5%（8/1，全国））

4. 今後の安全な大会開催に向けて

- (1) 感染対策の考え方
 - **競技外の感染の防止、競技中の感染リスクの低減**を目指す
 - 「実行できない理想論」より「**実現可能な有効策**」を徹底する
- (2) 具体的な感染対策
 - ① 日常からの感染対策の継続
手指衛生、マスク、健康観察、**「体調不良時は休むこと」の意識づけ**
 - ② 大会参加時の留意点
大会参加 2 週間前からの他団体との試合・合同練習の回避
事前検査、ワクチン接種の検討
移動・宿泊時のノーマスク接触の回避
他校との交流時の感染対策の徹底（マスク着用、三密回避）
 - ③ 競技環境の改善
試合会場、ロッカー等の**密集回避、換気と手指衛生**の実施